

なると考えます。

【問2】

▼空き家対策

▼高性能住宅への消費税軽減税率の適用

▼異業種間協働の推進

▼高齢者、子育て支援

▼生活者の意識高揚

【問3】

▼税制改革（空き家対策、消費税の軽減税率適用）

▼異業種協働による付加価値の高い住宅および街づくりへの公的支援

▼各種認定、認証の簡素化および期間短縮

▼防災や省エネ、相互扶助など暮らしに関する公的キャンペーン

【問4】

国内の住宅産業界には少子高齢化や空き家など多くの課題があります。また、子どもから高齢者までが安全・安心に暮らせる住まいづくりや街づくりが求められています。

そのため、これからの住宅産業界を担う人材には建築の歴史に学び、将来を見据えた柔軟な発想で、国内のみならず、グローバルに安全・安心に暮らすための取り組みを展開できるように努めていただきたいと思います。

壊さず永く住み続ける社会資本としての住宅を

三菱地所レジデンス 代表取締役 取締役社長

小野 真路

【問1】

「壊さず永く住み続けられる社会資本としての住宅の実現」であると考えます。

住宅自体が、資源を消費してつくられること、そしてそれが長期に亘って使い続けられるものであることが必要だ。また、人口減少が確実視される中、社会資本整備の名目下のインフラは将来に亘って維持管理可能なエネルギー消費のより少ない資産に変換していく必要があると考え

【問2】

①新築時…住宅が使用する化石資源の使用を可能な限りゼロに近づける

技術革新

②既存ストック改修時…SI技術の応用等の技術革新

【問3】

フローからストックへと住宅政策が転換され、長寿命化が叫ばれる中、極めて深刻で課題が多岐に亘る、地球環境問題に対する対応として、改正住宅省エネ基準等の施策が講じられている。

一方で、これら施策は一定の基準は示されてはいるものの、目指すべき水準とビジョンが明確な、より実効性の高い施策を求めたい。

【問4】

人口が減少していく社会環境にあわせて規模や用途の適正化を考えていくことが求められていると考える。

こうした価値観をもって建物の基本性能（特に後からは変更することが困難な共用部分の基本性能）を大切にしながら、永く住み続けられる

住宅をつくるために、日々の業務に取り組みでいただきたいと考える。

日本らしい住文化を 伝承していく

朝日ウッドテック 代表取締役社長

海堀 芳樹

【問1】

「日本らしい住文化の伝承」と「成熟社会にふさわしい豊かな暮らしの提供」。

スマートハウス化などにより住宅の質が高まり、どんどん巨大な家電と化していく一方で、そこに住まう人の心と身体にとっての本当の安らぎや癒やしが求められる時代になってきている。よって、日本人らしい感性・価値観に合った素材選びと空間作りによって豊かな暮らしを実現出来ることがこれからの時代に求められる住まいの価値となると考える。

【問2】

戦後、日本の住宅は機能的価値（性能、品質等）の側面が大きく進歩を遂げてきた。一方で文化的、感性的価値（素材の風合い等）の側面がおろそかになっていった感がある。心と身体にとっての安らぎ・癒やしを提供できる住まい作りのためには、感性の側面から、住まいを構成する要素、例えば素材に対する知見などを高めることで、これからの日本の住まいのあるべき姿を描けるようになることが課題であると考えます。

【問3】

安らぎや癒やしを提供する住まい作りにおいて、そこに使われる素材選びが大切である。とりわけ、日本の住文化を象徴する素材「木」の活用は大きなテーマである。木材利用ポイントなどをはじめとする木材活用を促進する政策を期待したい。

モノを得る充足より心の充足が求められる時代に、本当に快適で安らげる住まいとそこに使われる部材を日本人の優れた美意識と感性で生み出していけることを期待します。

【問4】

モノを得る充足より心の充足が求められる時代に、本当に快適で安らげる住まいとそこに使われる部材を日本人の優れた美意識と感性で生み出していけることを期待します。

部分最適ではなく 全体最適を考える

ハウセコ 代表取締役社長

神戸 睦史

【問1】

私が住宅業界に居た頃（平成3年〜8年）は、木質パネル・木造軸組・鉄骨軸組・ラーメン・鉄筋コンクリート・2×4・等、多種多様な工法が氾濫していましたが、現在は木造軸組面材張りという形に収斂していく方向性。都市部の鉄骨造を除いてではないでしょうか？ プレカット工場の全国的な広がりにより、以前は存在したプレハブメーカーと地場工務店との構造・標準化・現場施工比率等の差が、急速に縮まっていますように思います。

このような状況の中、住宅供給事業者の優劣を決めるのは、ハードではなくソフトだと思います。ハード

面については、玉石混交の工務店・設計事務所・ビルダー、比較的つぶしのハウスメーカーと色分けされますが、気密・断熱・室内換気・小屋裏換気・壁通気・雨仕舞・化学物質・薬剤等のソフト面の知識になるかとカテゴリーに関係なく整理できていない部分が多いと思います。

【問2】

前項で挙げた課題は、今まで進んでいなかった研究分野も多く体系化されていません。

高気密高断熱の時代に入った現代の住宅は、思わぬ所から劣化するというリスクを多く抱えています。

部分最適ではなく、全体最適を考

えることが、今一番求められていることだと思います。

【問3】

全体最適を考えるためのタスクチームを結成し、研究すること

【問4】

日本は、様々な気象条件があり、正解を求めることが非常に難しいと思います。

自分の意見に凝り固まるのではなく、常に新しい知見を求める旅を続けてほしいと思います。

快適な室内環境を長期間 維持する住まいの普及を

旭ファイバーグラス 代表取締役 社長執行役員

狐塚 章

【問1】

高齢化が進む日本においては、健